

せきぞうぶつ 〔石像物〕

25 もちあげかんのん
持揚げ観音(永田)

高瀬に觀世音菩薩を安置する佛堂があり、この觀音様に願をかけて、願いかなえば非常に軽く、かなわないほど重くなると伝わる。桃礼より天保3年(1832)以前に安置されたものと思われる。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収める経塔であるが、後に墓碑塔(ぼひとう)・追善塔(ついせんとう)として建てられるようになった。多くは石造で下から基礎、塔身、笠、相輪と組み合せてある。中世の武士階級の墓と思われる。町内には湯木と常定にある。



32 ゆきのもみ
湯木のモミ(湯木)

根回り7.5m、胸高幹囲(きょうこうかい)6.1m、樹高約32m。樹齢は300年以上とみられ、モミとしては県内最大。昭和53年(1978)1月、広島県天然記念物に指定。



33 むかいざみのさくら
向住のサクラ(向泉)

根回り3.3m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.2m、樹高約20m、樹齡約150年のエドヒガン。昭和60年(1985)5月、庄原市天然記念物。(当時口和町天然記念物)に指定。



35 まえはまのきゃらばく
前浜のキャラボク(宮内)

根回り1.2m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.1m、樹高約4.5m、樹齡は推定400年以上で、母樹イチイと異なり、幹は直立しない。葉は対生せずらせん状につく。県内有数のキャラボクで平成16年(2004)7月、庄原市天然記念物(当時口和町天然記念物)に指定。



じゅもく 〔樹木〕

26 なわすりいし
なわすり石(金田)

西城川には荷物を運ぶ川舟が行き来しており、川上へは水夫(カゴ)が舟を前引き綱で引いて通っていた。川が急角度で折れ曲がる金田塙谷のオオエ湖にこの大岩があり、綱がこれで難儀(なんぎ)した為にこの名がつけられた。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収める経塔であるが、後に墓碑塔(ぼひとう)・追善塔(ついせんとう)として建てられるようになった。多くは石造で下から基礎、塔身、笠、相輪と組み合せてある。中世の武士階級の墓と思われる。町内には湯木と常定にある。



32 ゆきのもみ
湯木のモミ(湯木)

根回り7.5m、胸高幹囲(きょうこうかい)6.1m、樹高約32m。樹齢は300年以上とみられ、モミとしては県内最大。昭和53年(1978)1月、広島県天然記念物に指定。



33 むかいざみのさくら
向住のサクラ(向泉)

根回り3.3m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.2m、樹高約20m、樹齡約150年のエドヒガン。昭和60年(1985)5月、庄原市天然記念物。(当時口和町天然記念物)に指定。



35 まえはまのきゃらばく
前浜のキャラボク(宮内)

根回り1.2m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.1m、樹高約4.5m、樹齡は推定400年以上で、母樹イチイと異なり、幹は直立しない。葉は対生せずらせん状につく。県内有数のキャラボクで平成16年(2004)7月、庄原市天然記念物(当時口和町天然記念物)に指定。



26 なわすりいし
なわすり石(金田)

西城川には荷物を運ぶ川舟が行き来しており、川上へは水夫(カゴ)が舟を前引き綱で引いて通っていた。川が急角度で折れ曲がる金田塙谷のオオエ湖にこの大岩があり、綱がこれで難儀(なんぎ)した為にこの名がつけられた。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収める経塔であるが、後に墓碑塔(ぼひとう)・追善塔(ついせんとう)として建てられるようになった。多くは石造で下から基礎、塔身、笠、相輪と組み合せてある。中世の武士階級の墓と思われる。町内には湯木と常定にある。



32 ゆきのもみ
湯木のモミ(湯木)

根回り7.5m、胸高幹囲(きょうこうかい)6.1m、樹高約32m。樹齢は300年以上とみられ、モミとしては県内最大。昭和53年(1978)1月、広島県天然記念物に指定。



33 むかいざみのさくら
向住のサクラ(向泉)

根回り3.3m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.2m、樹高約20m、樹齡約150年のエドヒガン。昭和60年(1985)5月、庄原市天然記念物。(当時口和町天然記念物)に指定。



35 まえはまのきゃらばく
前浜のキャラボク(宮内)

根回り1.2m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.1m、樹高約4.5m、樹齡は推定400年以上で、母樹イチイと異なり、幹は直立しない。葉は対生せずらせん状につく。県内有数のキャラボクで平成16年(2004)7月、庄原市天然記念物(当時口和町天然記念物)に指定。



26 なわすりいし
なわすり石(金田)

西城川には荷物を運ぶ川舟が行き来しており、川上へは水夫(カゴ)が舟を前引き綱で引いて通っていた。川が急角度で折れ曲がる金田塙谷のオオエ湖にこの大岩があり、綱がこれで難儀(なんぎ)した為にこの名がつけられた。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収める経塔であるが、後に墓碑塔(ぼひとう)・追善塔(ついせんとう)として建てられるようになった。多くは石造で下から基礎、塔身、笠、相輪と組み合せてある。中世の武士階級の墓と思われる。町内には湯木と常定にある。



32 ゆきのもみ
湯木のモミ(湯木)

根回り7.5m、胸高幹囲(きょうこうかい)6.1m、樹高約32m。樹齢は300年以上とみられ、モミとしては県内最大。昭和53年(1978)1月、広島県天然記念物に指定。



33 むかいざみのさくら
向住のサクラ(向泉)

根回り3.3m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.2m、樹高約20m、樹齡約150年のエドヒガン。昭和60年(1985)5月、庄原市天然記念物。(当時口和町天然記念物)に指定。



35 まえはまのきゃらばく
前浜のキャラボク(宮内)

根回り1.2m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.1m、樹高約4.5m、樹齡は推定400年以上で、母樹イチイと異なり、幹は直立しない。葉は対生せずらせん状につく。県内有数のキャラボクで平成16年(2004)7月、庄原市天然記念物(当時口和町天然記念物)に指定。



26 なわすりいし
なわすり石(金田)

西城川には荷物を運ぶ川舟が行き来しており、川上へは水夫(カゴ)が舟を前引き綱で引いて通っていた。川が急角度で折れ曲がる金田塙谷のオオエ湖にこの大岩があり、綱がこれで難儀(なんぎ)した為にこの名がつけられた。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収める経塔であるが、後に墓碑塔(ぼひとう)・追善塔(ついせんとう)として建てられるようになった。多くは石造で下から基礎、塔身、笠、相輪と組み合せてある。中世の武士階級の墓と思われる。町内には湯木と常定にある。



32 ゆきのもみ
湯木のモミ(湯木)

根回り7.5m、胸高幹囲(きょうこうかい)6.1m、樹高約32m。樹齢は300年以上とみられ、モミとしては県内最大。昭和53年(1978)1月、広島県天然記念物に指定。



33 むかいざみのさくら
向住のサクラ(向泉)

根回り3.3m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.2m、樹高約20m、樹齡約150年のエドヒガン。昭和60年(1985)5月、庄原市天然記念物。(当時口和町天然記念物)に指定。



35 まえはまのきゃらばく
前浜のキャラボク(宮内)

根回り1.2m、胸高幹囲(きょうこうかい)1.1m、樹高約4.5m、樹齡は推定400年以上で、母樹イチイと異なり、幹は直立しない。葉は対生せずらせん状につく。県内有数のキャラボクで平成16年(2004)7月、庄原市天然記念物(当時口和町天然記念物)に指定。



26 なわすりいし
なわすり石(金田)

西城川には荷物を運ぶ川舟が行き来しており、川上へは水夫(カゴ)が舟を前引き綱で引いて通っていた。川が急角度で折れ曲がる金田塙谷のオオエ湖にこの大岩があり、綱がこれで難儀(なんぎ)した為にこの名がつけられた。



27 こうしんとう
庚申塔(向泉)

青面金剛(しょうめんこんごう)像塔と、桃を持つ三猿の像塔がある。江戸後期に庄原を中心多く作られるが、三猿塔は備北に例がない。嫁入りの祝いで石仏を当家に持ち込む風習があり、大月地区での嫁入りの時に持ち込まれた庚申塔の返す場所が解らず、この場所にあった薬師堂に安置された。このお堂では昭和初期にどうさんまつりと言つて旧盆の夜に子どもを集めで火花などが行われていた。



28 ほうきょういんとう
宝鏡印塔(湯木・常定)

本来、經典を収